



1 農業文化園 戸田川緑地




戸田川緑地は、港区と中川区を流れる戸田川の両岸に南北2.5kmにわたり広がる名古屋市南西部で最大規模の公園です。農業文化園は戸田川緑地の敷地内にあり、農業の大切さと花を愛する心をはぐくむ市民憩いの施設として親しまれています。散歩やレジャーなど市内外から多くの方がここに訪れています。

2 御鞆神社




西福田新田は1643年に当時の愛知郡八田村の豪農、鬼頭景義によって開拓されましたがその後、低湿地のため不作が続きました。そのため福田川を開削し、戸田川を改修などの難工事に取り組み、その工事の安全と豊作を祈願して御鞆様を祀ったものです。

3 いちご畑




大きいビニールハウスが目印の、名古屋市内で唯一いちご狩りが楽しめる観光農園です。平成22年にオープンし、毎年12月ごろ～6月上旬ごろまでがシーズンとなっています。いちご畑で採りたいちごを使ったジャム等の商品も販売しています。※シーズン中のいちご狩りは完全予約優先(詳しくはホームページ等でご確認ください)

4 戸田川緑道




およそ1kmを遊歩道として、戸田川沿いに整備された戸田川緑道は、地元の方の散歩コースとして親しまれています。この緑道にはソメイヨシノ、カワツツクラやサルズベリなどが植えられており、時期によってさまざまな美しい景色が楽しめます♪(休憩スポットあります)

5 南陽神社



大正12年より、日清戦争以来の戦死・病死者が祀られています。靖国神社より分霊を勧請し、当時は南陽忠魂社と称しました。昭和30年に現社名に変更され、境内には、伊勢湾台風殉難者の慰霊之碑があります。

6 七反野地蔵堂



鬼頭景義が福田新田を開拓したとき、この地が庄内川と戸田川の中間にあたり、工事犠牲者の冥福と堤防が切れないようにとの願いから、干拓完成の寛永17年(1640年)に、ここに地藏堂を建立したといわれています。



南陽さんぽマップ

S: スタート G: ゴール

ウォーキングコース


[夕焼けと戸田川緑道をめぐるコース] [5.7km] (約85分)
 [お寺や神社を中心にめぐるコース] [4.7km] (約70分)
 [藤前干潟と田んぼアートをめぐるコース] [5km] (約75分)

①~⑪ 散策ポイント

お寺 神社 公園 (トイレあり)


スタートポイント/ゴールポイント 学校 公共施設 史跡/寺社等 商業施設

7 七反野神社




鬼頭景義により、福田新田の堤防が締め切られた直後に建てられたといわれています。祭神は国常立命。昭和19年、空襲により全焼し、戦後に再建されました。

8 田んぼアート会場




田んぼアートとは、葉の色の異なる古代米等を使って、広大な田んぼに絵を描く取組みです。南陽地域は、平成23年から名古屋市内で唯一田んぼアート制作を行っている地域です。毎年7月上旬頃に見ごろを迎えます。

9 アグリパーク南陽




平成14年に創設され、名古屋市内で最大となる2ヘクタールの温室でのトマトの栽培をしています。トマトの生産量は年間400~450トンで品種は「桃太郎」です。また、名古屋で初めて一般の参加者向けに始めた体験農園も多くの方が参加しています。広大な温室は行ってみるとその大きさに圧倒されます。

10 七里の渡灯台跡



庄内川、新川と日光川が合流して伊勢湾にそそぐこの地は、その昔、熱田から桑名へ向かう海上七里の渡船の航路にあたっていました。航行の安全を図るため灯台が立てられ、渡船夜泊の標識として毎夜点じられました。

11 藤前活動センター



南陽地域最南端に位置し、南に向かって広大に広がる藤前干潟と、そこでえさをとる野鳥たちの姿を見ることができます。館内では、干潟に生息するカニや魚などを見ることができるほか、干潟に入った際の体感学習や調査を行う際の拠点施設にもなります。3階の展望室からは藤前干潟を一望できるほか、望遠鏡で野鳥を観察することもできます。

